

関係各位

京都府病虫害防除所長
(公印省略)

病虫害発生予察情報について

下記のとおり発表しましたので、送付します。



発生予察特殊報第 4 号

| | |
|-------|--|
| 病虫害名 | ツマジロクサヨトウ <i>Spodoptera frugiperda</i> (J.E.Smith) |
| 対象作物名 | スイートコーン、飼料用トウモロコシ、ソルガム など |
| 発生地域 | 山城地域 |

1 発生経過

京田辺市に設置したフェロモントラップにおいて、2019年10月24日、本種と疑われる成虫(雄)が捕獲された(写真1)。農林水産省神戸植物防疫所に同定を依頼した結果、交尾器の形状(写真2)から、府内では未発生のツマジロクサヨトウであることが確認された。

なお、本種の侵入警戒調査は、7月から府内各地域のスイートコーン、イネ科飼料作物(飼料用トウモロコシ、ソルガム等)、飼料用イネ等のほ場において行っているが、本種幼虫の発生は認められていない。

2 国内における発生状況

本種は、2019年7月3日に鹿児島県の飼料用トウモロコシにおいて国内で初めて確認され、これまでに九州をはじめとする21府県で発生が確認されている。近隣の府県では三重県(9月3日)及び大阪府(10月1日)において、飼料用トウモロコシやソルガムほ場において幼虫の発生が確認されている。

なお、徳島県(10月2日)、兵庫県(10月9日)、愛知県(10月11日)、島根県(10月21日)、和歌山県(10月24日)、香川県(11月1日)でもフェロモントラップで成虫が捕獲されたとして、特殊報が発表されている。

3 本種の形態及び生態的特徴

(1) 成虫は開張約37mm、雌雄で外観が大きく異なり、雄のみが前翅中央部に白斑を持つ(写真3)。終齢幼虫は体長約40mmで、頭部の複眼と前額の境界にみられる逆Y字状の模様(写真4)および尾部の斑点(写真5)が特徴である。卵は寄主植物に塊状に産み付けられ、雌の体毛で覆われる。

(2) 本種は南北アメリカ大陸の熱帯～亜熱帯原産で、暖地に適応した種である。南北アメリカでは毎年夏季に成虫が移動・分散するが、暖地を除く地域では越冬することはできない。

本種の分布地域は、北米～南米、アフリカ(エジプト、サハラ以南)、アジア(インド、中国、台湾、韓国、タイ、ミャンマーなど)である。

(3) これまでのところ、国内で発生が確認された農作物はイネ科作物(飼料用トウモロコシ、スイートコーン、ソルガム、サトウキビ)である。文献では、イネ科作物の他、アブラナ科(カブ等)、ウリ科(キュウリ等)、キク科(キク等)、ナス科(トマト、ナス等)、ナデシコ科(カーネーション)、ヒルガオ科(サツマイモ等)、マメ科(ダイズ等)などの広範囲な作物を加害するとされている。

(4) 幼虫が植物の葉、茎、花および果実を食害する。若齢幼虫は葉を裏側から集団で加害し、成長すると加害しながら分散する。

4 防除対策

- (1) 国内では、飼料用トウモロコシ、スイートコーン、ソルガム及びサトウキビで幼虫が見つかっていることから、これらの作物については特にほ場を見回り、早期発見に努める。
- (2) 本虫の疑いがある幼虫を発見した場合には、速やかに京都府病虫害防除所まで連絡する。
- (3) 本種の発生が確認された場合、京都府は植物防疫法第29条第1項の規定により薬剤散布の指導を行う。
本種に対して使用できる農薬については、農林水産省HPを参照する（注）。
注：http://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/keneki/k_kokunai/tumajiro.html
- (4) 発生が確認されたほ場では、本虫の分散を防ぐため、収穫後は速やかに耕起し、残渣をすき込む。



写真1 フェロモントラップに捕獲された雄成虫

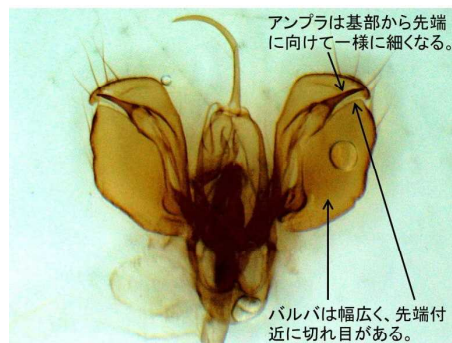


写真2 取り出した雄交尾器



写真3 ツマジロクサヨトウ雄（左）及び雌成虫（右）、農林水産省HPより引用



写真4 幼虫（頭部）※



写真5 幼虫（尾部）※

※写真4，写真5は鹿児島県病虫害防除所HPより引用